

平成21年4月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成21年3月9日

上場会社名 株式会社 アスカネット

上場取引所 東

コード番号 2438 URL <http://www.asukanet.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO

(氏名) 福田 幸雄

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO

(氏名) 功野 顕也

TEL 082-850-1200

四半期報告書提出予定日 平成21年3月13日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年4月期第3四半期の業績(平成20年5月1日～平成21年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年4月期第3四半期	3,371	—	411	—	410	—	236	—
20年4月期第3四半期	3,001	25.8	502	381.2	504	350.6	286	403.4

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年4月期第3四半期	5,482.01	—	—	—
20年4月期第3四半期	6,622.40	—	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
21年4月期第3四半期	2,759	73.8	2,046	73.8	—	—	47,592.74	—
20年4月期	2,748	69.5	1,916	69.5	—	—	44,170.15	—

(参考) 自己資本 21年4月期第3四半期 2,036百万円 20年4月期 1,909百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年4月期	—	0.00	—	1,700.00	1,700.00
21年4月期	—	0.00	—	—	—
21年4月期(予想)	—	—	—	1,750.00	1,750.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年4月期の業績予想(平成20年5月1日～平成21年4月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	4,560	12.0	580	△8.9	575	△9.8	332	△8.7	7,712.50

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2)四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年4月期第3四半期 43,660株 20年4月期 43,660株

② 期末自己株式数 21年4月期第3四半期 878株 20年4月期 429株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年4月期第3四半期 43,132株 20年4月期第3四半期 43,231株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

2. 平成20年6月13日に公表した業績予想を修正しております。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 上記の予想は、本資料発表日時点において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって、予想数値と異なる場合があります。なお、上記の予想に関する事項は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

※前年同期の金額及び前年同期比につきましては、参考として記載しております。

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、米国サブプライムローン問題に端を発する金融市場の混乱が深刻化し、企業収益の悪化や雇用不安の表面化等により、景気後退色が強まっております。

当社を取り巻く環境といたしましては、デジタルカメラの普及が拡大し、デジタルならではの写真の楽しみ方が浸透しており、当社が提案してまいりました写真集を作成する楽しみも、「フォトブック」市場として大きな注目を集めております。一方、景気の後退により、消費マインドが低下しており、業務向けの写真市場や葬儀市場だけでなく、一般消費者市場におきましても、環境は一段と厳しさが増しております。

このような状況の中、当社はフューネラル(葬祭)市場に対する遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力を主体としたメモリアルデザインサービス事業と、デジタル写真とオンデマンド印刷の融合を目指し、一般消費者からプロフェッショナル写真家までをターゲットに個人向け写真集の作製、販売を主体としたパーソナルパブリッシング事業を中心として、一つ一つカスタマイズされたモノ創りにこだわって展開してまいりました。

事業別の概況を示すと次のとおりであります。

メモリアルデザインサービス事業におきましては、引き続き当社の画像処理の高い技術力や充実した自社サポート体制を強調した顧客開拓を進め、堅調に新規顧客を獲得することができました。また、カラー額を中心にサプライ売上が好調に推移いたしました。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,323,664千円となりました。

パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、自社営業による開拓のほか、ミニセミナーの開催などにより知名度の拡大を図ったほか、新製品をリリースし、サービスラインを強化してまいりました。その結果、婚礼市場を中心とした国内B to B市場とマイブックを中心としたB to C市場は堅調に推移いたしました。一方、海外市場は、特にアメリカ市場において景気後退および円高の影響により、厳しい水準で推移しております。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,047,393千円となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,371,058千円(前年同期比112.3%)となり、費用面におきましては、営業経費の増加、及び主にオンデマンド印刷機の法定耐用年数短縮による減価償却費の増加や、円高の影響等により、経常利益は410,735千円(前年同期比81.5%)、四半期純利益は236,449千円(前年同期比82.6%)となりました。

各事業別の売上は、次のとおりであります。

事業	前第3四半期累計期間 (自平成19年5月1日 至平成20年1月31日)		当第3四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)		対前年 増減率 (%)	前事業年度 (自平成19年5月1日 至平成20年4月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		金額(百万円)	構成比(%)
メモリアルデザインサービス事業	1,234	41.1	1,323	39.3	7.2	1,691	41.5
パーソナルパブリッシングサービス事業	1,766	58.9	2,047	60.7	15.9	2,381	58.5
合計	3,001	100.0	3,371	100.0	12.3	4,072	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ11,618千円増加し、2,759,754千円となりました。これは主に、新社屋の建設により有形固定資産が165,098千円増加し、ソフトウェアの開発により無形固定資産が110,756千円増加した一方、現金及び預金が372,607千円減少したことによるものであります。当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度に比べ、119,019千円減少し、713,079千円となりました。これは主に、未払法人税等が215,000千円減少した一方、長期借入金が増加したことによるものであります。当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度に比べ130,637千円増加し、2,046,674千円となりました。これは主に、剰余金の配当として73,492千円計上した一方で、四半期純利益を236,449千円計上したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度に比べ372,607千円減少し、226,309千円となりました。

また、当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、117,100千円(前年同期比24.2%)となりました。これは主に、税引前四半期純利益を410,669千円計上した一方で、前事業年度の利益の増加に伴い法人税等の支払額が390,255千円生じたためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、539,390千円(前年同期比178.3%)となりました。これは主に、新社屋の建設費支出やソフトウェア開発に伴う支出、生産設備の増強に伴う支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、50,889千円(前年同期は57,943千円の使用)となりました。これは主に、剰余金の配当として72,694千円支払った一方で、長期借入金として200,000千円を調達したためであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当社は、一つという最少ロットから一人一人のためにカスタマイズされたサービスを提供するという時代に即したビジネスを展開し、安定した需要の取り込みを目指してまいります。メモリアルデザインサービス事業、パーソナルパブリッシングサービス事業とも、収益の安定的成長と適切な利益獲得を至上命題とし、高付加価値サービスの提供に努めてまいります。

両事業とも、十分に成長可能な市場を抱えており、それぞれの営業施策により、顧客の獲得やサービスの浸透による売上増加が見込まれます。特にパーソナルパブリッシングサービス事業においては、ご注文いただいた方からの高い評価を得ており、多くのリピートオーダーを頂いております。また高品質で多品種のサービスを安定供給できる体制が完備したとともに、写真のアウトプット市場という大きな市場を有しておりますので、サービス知名度向上により大きな事業拡大が可能であると認識しております。

平成21年4月期は、海外を含めたプロフェッショナル市場、国内コンシューマ市場ともに新たなソフトウェアをリリースし、また新社屋も建設し、さらなる成長に向けた基礎作りの時期と考えております。また、税制の改正により、当社の主力生産設備でありますオンディマンド印刷機の耐用年数が短縮されました結果、従来の耐用年数によった場合と比べ減価償却費が、通期で約120百万円増加することが見込まれております。

第3四半期に入り、パーソナルパブリッシングサービス事業の海外市場及び国内コンシューマ市場におきまして、円高や景気減退、新サービス、新ソフトウェアの投入が計画から遅れたことを主な要因として、売上、利益とも当初の予想を下回って推移しております。また、今後につきましても、経済状況は厳しいまま推移するものと見込まれます。

以上により、平成21年4月期の業績予想を、売上高4,560百万円(前期比112.0%)、営業利益580百万円(前期比91.1%)、経常利益575百万円(前期比90.2%)、当期純利益332百万円(前期比91.3%)と修正いたしました。なお、当該予想につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」を併せてご参照ください。

なお、上記見通しは、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、さまざまな要因によって、予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

②たな卸資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産につきましては、従来、主として移動平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。なお、この変更に伴う損益への影響はありません。

1【四半期財務諸表】
 (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	226,309	598,916
受取手形及び売掛金	560,468	459,881
商品及び製品	67,977	47,096
原材料	38,875	48,430
仕掛品	17,298	12,968
その他	80,299	82,159
貸倒引当金	△6,841	△5,601
流動資産合計	984,387	1,243,850
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	549,569	322,920
機械及び装置(純額)	313,541	410,375
土地	370,758	370,758
その他(純額)	130,495	95,212
有形固定資産合計	1,364,365	1,199,266
無形固定資産	241,771	131,014
投資その他の資産	169,231	174,004
固定資産合計	1,775,367	1,504,285
資産合計	2,759,754	2,748,135
負債の部		
流動負債		
買掛金	106,503	87,274
未払法人税等	34,900	249,900
賞与引当金	51,700	83,200
その他	260,257	259,642
流動負債合計	453,361	680,016
固定負債		
長期借入金	245,496	138,243
退職給付引当金	14,222	13,839
固定負債合計	259,718	152,082
負債合計	713,079	832,098

(単位:千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	1,027,368	864,411
自己株式	△74,644	△50,775
株主資本合計	2,049,609	1,910,521
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13,496	△1,001
評価・換算差額等合計	△13,496	△1,001
新株予約権	10,562	6,517
純資産合計	2,046,674	1,916,037
負債純資産合計	2,759,754	2,748,135

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)
売上高	3,371,058
売上原価	1,658,440
売上総利益	1,712,617
販売費及び一般管理費	1,301,139
営業利益	411,478
営業外収益	
受取利息	720
受取配当金	725
受取手数料	820
その他	1,100
営業外収益合計	3,365
営業外費用	
支払利息	3,469
その他	639
営業外費用合計	4,109
経常利益	410,735
特別損失	
固定資産除却損	65
特別損失合計	65
税引前四半期純利益	410,669
法人税等	174,219
四半期純利益	236,449

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	410,669
減価償却費	260,615
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,262
賞与引当金の増減額(△は減少)	△31,500
退職給付引当金の増減額(△は減少)	383
受取利息及び受取配当金	△1,445
支払利息	3,469
為替差損益(△は益)	1,206
固定資産除却損	65
売上債権の増減額(△は増加)	△100,586
たな卸資産の増減額(△は増加)	△15,656
仕入債務の増減額(△は減少)	19,229
未払消費税等の増減額(△は減少)	△16,669
その他	△21,727
小計	509,315
利息及び配当金の受取額	1,441
利息の支払額	△3,401
法人税等の支払額	△390,255
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,100
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△391,486
無形固定資産の取得による支出	△139,516
貸付けによる支出	△5,000
貸付金の回収による収入	330
その他	△3,717
投資活動によるキャッシュ・フロー	△539,390
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	200,000
長期借入金の返済による支出	△52,547
配当金の支払額	△72,694
自己株式の取得による支出	△23,869
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,889
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,206
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△372,607
現金及び現金同等物の期首残高	598,916
現金及び現金同等物の四半期末残高	226,309

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) 前四半期損益計算書

区分	前第3四半期累計期間 (自 平成19年5月1日 至 平成20年1月31日)	
	金額(千円)	百分比 (%)
I 売上高	3,001,229	100.0
II 売上原価	1,355,744	45.2
売上総利益	1,645,484	54.8
III 販売費及び一般管理費	1,143,150	38.1
営業利益	502,334	16.7
IV 営業外収益	3,758	0.2
V 営業外費用	1,854	0.1
経常利益	504,237	16.8
VI 特別利益	946	0.0
VII 特別損失	7,347	0.2
税引前第3四半期純利益	497,837	16.6
法人税、住民税及び事業税	211,544	
法人税等調整額	—	211,544
第3四半期純利益	286,292	9.5

(2) 前四半期キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期累計期間 (自 平成19年5月1日 至 平成20年1月31日)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前第3四半期純利益	497,837
減価償却費	130,958
株式報酬費用	4,045
貸倒引当金の減少額	△ 876
賞与引当金の減少額	△ 33,500
退職給付引当金の増加額	1,615
受取利息及び受取配当金	△ 1,317
支払利息	1,854
為替差損	11
固定資産売却損	2,334
固定資産除却損	5,012
売上債権の増加額	△ 40,219
たな卸資産の増加額	△ 25,577
仕入債務の増加額	20,286
未払消費税等の増加額	5,645
その他	△ 34,612
小計	533,498
利息及び配当金の受取額	1,313
利息の支払額	△ 1,838
法人税等の支払額	△ 49,367
営業活動によるキャッシュ・フロー	483,605
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 265,109
有形固定資産の売却による収入	6,000
無形固定資産の取得による支出	△ 43,979
長期貸付金の回収による収入	180
その他	349
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 302,560
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△ 29,097
配当金の支払額	△ 28,846
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 57,943
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11
V 現金及び現金同等物の増加額	123,090
VI 現金及び現金同等物の期首残高	394,127
VII 現金及び現金同等物の第3四半期期末残高	517,217